

「あなたは重慶・四川大爆撃を知っていますか？」

—忘れてはならない記憶がある—

重慶較場口6.5防空大隧道1万人窒息死・圧死事件」77周年、
重慶・四川大爆撃80周年

- 2018年6月4日(月)13時開幕
- 2018年6月9日(土)17時閉幕
- 旧日本銀行広島支店(広島市中区袋町5番21号)
- 呼びかけ人会主催

「大空襲」「大爆撃」と聞けば、日本人なら敗戦直前のアメリカ軍による全国67都市に及ぶ大空襲を思い起こします。米軍機の軍事目標と一般住民の生活区域との差別なく全都市を破壊し、焼き払う無差別爆撃の反人道性は、日本人にとっては忘れることのできない悲痛な歴史です。

ところが、こうした反人道的な無差別爆撃は、実は米軍より先に日本軍が中国の重慶や成都、梁山などの四川省の各都市に対して行ってきたのです。重慶・四川大爆撃で中国が受けた甚大な被害は、米軍による大空襲や原爆投下となってプーメランのように日本に跳ね返ってきたのです。

1938年2月から1944年12月までの6年10ヵ月(1937年下半年より1943年上半年とする研究者の見解も有る)の長きにわたる日本軍の無差別爆撃は史上空前のもので、最も野蛮かつ残酷で、苛烈を極めるものでした。1937年11月より重慶市は、中国国民政府の戦時首都とされ、特に日本軍が武漢を占領した1938年10月以降は、政治、経済、文化の中心地となっていました。この戦時首都・重慶とその周辺の四川全域を徹底的に空爆することで、抗日戦争を戦っている中国と中国人民の抗戦意志を叩き潰すことを目的としたものです。

爆弾が落ちたところは、烈しく火が燃え盛り、煙は天を突き、辺り一面は、たちまち火の海になって、人々は叫び、赤ん坊は泣き喚きました。家屋や店舗、建物は崩壊し、瓦礫の中には死体がころがり、樹の枝や電線には死人の手足がひっかかっている見るに堪えない惨状を呈し、血まみれた焦土と化しました。

1941年6月5日には、爆撃によって、較場口防空大隧道に閉じ込められた数千人~1万人の人々が窒息死、圧死した「較場口防空大隧道窒息死・圧死事件」が引き起こされました。「あなたは重慶・四川大爆撃を知っていますか？」開催中に77周年を迎えます。決して許してはならない、忘れてはならない日本が犯した罪悪の歴史です。

最近の研究では、重慶・四川大爆撃による死傷者は10万人以上(内重慶市区と重慶市周辺地区の死傷者は6万人以上)、家屋や店舗を失った人は100万人の規模と算出されています。

被害者は、「我々は爆撃の歴史を忘れることはできない。忘却は歴史への裏切りであり、犯罪である。日本の爆撃で重慶・四川の一般庶民が残虐に殺された事実を永遠に忘れないことが、重慶大爆撃を繰り返させない道である。」「良心的で目覚めた日本人民は、犯した過ちを深く反省し、二度と隣国を侵略することなく、中国人民と友好的につきあっていくことと確信している。平和こそは我々の最終にして最大の目的であり願ひである。」と訴えています。